

牛久：学校周辺に見る自然

第52号 牛久二小

2013年2月6日発行

＜冬の校庭でさがしてみよう！（動物編）～①昆虫＞

1/25、牛久二小4年2組と、雪の影響^{えいきょう}で1週間待たされた「校庭の動物観察」をしました。その中から今回は、昆虫^{こんちゅう}たちの冬越し^{ふゆご}の様子^{しやうかい}を紹介^{しょうかい}します。



アオギリの枝高くついていたハラビロカマキリの卵のう(左)と、イヌツゲの枝についていたオオカマキリの卵のう(右)。

始まってすぐ、皆さんがアオギリの枝の高い所に見つけてくれたのが、左のハラビロカマキリの卵のうでした。このカマキリは、林のふちなどで主に木の上で生活するからか、卵のうも木の幹や枝などの比較的高い所^{ひかくてき}につくられることが多いです。それにしても、あんな小さくしか見えなかったのに、よく見つけましたね。そして、ビオトープの林のふち、イヌツゲの枝で見つけたのが、右のオオカマキリの卵のう。こちらはだいたい皆さんの背の高さくらい、木の枝につくこともありますが、背の高い草^{くさ}の茎^{くき}などにもつくります。産卵場所^{さんらん}もだいたい毎年同じあたりのおようですね。



桜の幹で見つけてくれたのがこれ。なんだか分かりますか？これまでの観察でも毎回出てきていますが、これだけたくさん集まっているのは初めてですね。そう、葉を食べてしまうガの幼虫など、他の昆虫^{たいえき}の体液^{たいえき}を吸って生きて

いるヨコヅナサシガメの幼虫です。幹の割れ目に入りこんで、しかも集団でかたまって寒さに耐えます。幹の割れ目にかたまって冬を越すヨコヅナサシガメの幼虫。



サルスベリの幹と名札の間をのぞくと、マイマイガのさなぎと終齢幼虫の脱皮がら、卵かいが。右は2012. 6. 5水辺公園。そのすぐ近く、サルスベリの幹とその名札の間にガのさなぎも見つけましたね。さなぎの下に毛虫の死体のようなものが残っていますが、これは終齢幼虫の脱皮がらです。反対側からのぞくと上には卵かいかもついていました。図鑑やネットなどで調べ、**マイマイガ**のものであることが分かりました。



一見ミノムシのようにぶら下がっていたのは、**シンジュサン**というガのまゆです。クワコというよく似たまゆを作るガもいますが、食べる葉が違い、クワコはクワやヤマグワの葉を、シンジュサンはその名の通りシンジュや写真のニガキ、エゴノキなどの葉を食べるので、まゆもふつうはそれらの木につくるのです。



もう一つ、サルスベリの枝の切り口に穴があいていて、そこにもガのまゆとクモの卵のうのようなものがありました。おおぜいの目で探すと、いろいろ見つかりますね。

ニガキの枝にぶら下がるシンジュサンのまゆ（左）。サルスベリの枝の切り口にも、穴があいていてガのまゆが（右）。



最後に**ドロバチの仲間**の巣ですが、木の枝から幹、フェンスの裏側、ブロックの穴など、いろいろなところに見つかりましたね。穴があいているのは、すでに羽化して抜けたあと。形も大きさも違うので、何種類かあるのでしょうか。春から夏、秋と、昆虫たちのようすもだいぶ変わっていきますね。【理科支援員 宮内】いろいろなところにつくられた、**ドロバチの仲間の巣**。